

はばたき

1976



財団法人

神戸王子動物園協会

第5号

中国の動物園を



長頸鹿館（キリン舎）前の引渡し式でキリンを贈るメッセージを読む妻鹿園長

表紙説明

チンパンジーとしては、わが国は初めての三世
“銀太”をあやす母親ユキ

訪ねて

神戸市立王子動物園長

妻 鹿 敏 治

友好都市提携を記念して、神戸市から中国の天津市へ贈られることになったキリンを輸送して、約1カ月間、中国を訪れる機会を恵まれました。この間、日本にも報道されましたような大きな地震に見舞われ、天津地方も少なからぬ被害を受けたわけですが、にもかかわらず、市当局の並々ならぬご好意により、中国各地を旅行し、視察したいと思っていた動物園や公園などの施設はもとより、その他の施設についても数多く見学することができました。また訪問さきでは、いたるところで熱烈的な歓迎を受け、日中友好によせられる熱意の強さを痛感した次第です。

訪問いたしました主な都市は、天津をはじめ北京、西安、広州、上海の各市でしたが、ここでは、視察の主な目的であった動物園についてしるしてみましょう。

聞くとところによりますと、中国各地には、小規模の動物園を含めて155カ所の動物園があり、このうち大規模の動物園は15カ所くらいあるということでした。わたしたちが訪れた動物園のうち、天津と西安の動物園はまだ建設中で、続々と新しい動物舎の工事が進められていましたが、いずれにしても、これらの動物園は中国を代表する立派なもので、動物園に対する考え方なり、特徴がよく伺われるものばかりでした。その個々の園の状況については、さきに訪れたことがある当園の橋本飼育係長がすでに本誌で紹介していますので、わたしは感じた点について概括的に書いてみます。

中国の動物園では、まず第一にいえることは緑化に非常な努力が払われているということです。面積の広狭にかかわらず、水と緑を多くとり入れています。また、この緑化は市内の街路樹のみならず、農村にも強力に進められ、広大な畑地の中の小さなあぜ道にも並木が植えられ、黄土の中に育つ緑が鮮かに目に入る風景は、大変やわらかく、すがすがしいものでした。

第2に、公園とともに動物園は市民のリクリエーションセンターとして非常に重要視されていることです。日本と異り、慰安施設の少ない中国では、各種のスポーツ施設とともに、動物園は家族ぐるみで余暇を楽しむ重要な施設となっているようで、公園とともに、解放後、荒廃したものを市民全員が労働して建設したものが多く、みなこのことを誇りとして話しかけてくれました。市民の一人一人と公園、動物園の結びつきの強さを改めて痛感しました。

第3は、動物飼育技術の高いことです。しかも飼育員に女性が多いことも驚かされました。貴重な動物であるジャイアントパンダや金絲猴（シシバナザル）などの飼育にも女性が多数加わっています。わたしたちは現場で飼育員からいろいろ質問され、時間のたつのを忘れ、しばしば「早く次へ」とうながされる始末でした。

いずれにしても、中国の動物園は、すべての施設が近代的であるとはいえませんが、改造されたり、新設された動物舎には、新しい技術がとり入れられているのが随所に見受けられました。

＝キリン“長頸鹿”（チャン、チン、ルウ） 天津市へ行く＝

キリンの子（オス1 5才）1 頭を姉妹都市の中国天津市へ贈ることになり9頭の家族から、その1 頭を離れたのは出発する46日も前のことでした。

●出発前の検疫

できれば狭い輸送オリにならしておきたい。そして家畜伝染病予防法に基く輸出動物の検疫（7日間）もうける必要があったので1 頭だけを別の飼育舎に隔離したのです。

エサは輸送オリの中に入らないと食べられないようにも工夫しました。ところが動物園生れのこと2～3日もすると平気でオリに入りはじめ、1 カ月もする頃にはわざわざオリの中で座っているのです。

もう大丈夫。いよいよ出発する前夜、「別にあすの朝でもいいのでわ」との意見も出るほどオリになれていたのです。

●オリに入らなかった出発前夜

いや、やはり前日に入れておこうということになってキリンをオリの中に閉じこめる作業をはじめたのは出発の前日午後4時のエサ時でした。ところがどうでしょう。キリンの子は、何かを感じたのでしょうか、あれだけ毎日入っていたオリに前足すら入れようとしません。水や好物の木の枝、キヤベツ、ナンキン、何をどう見せても近づきません。とうとう10人総がかりで追い入れたのは午後10時すぎにもなってからのことでした。

●台風をのりこえて

中国天津市へ向って北上するのだから西風、つ



船積みも無事終り、天津市へ出航するキリン（神戸港で）

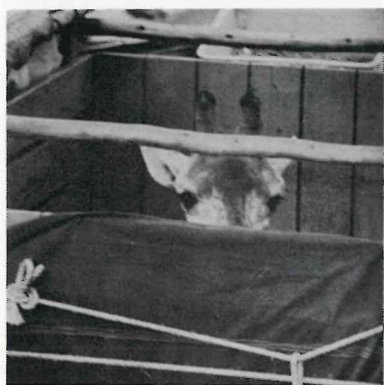
まり、左舷から波をうける。そこでキリンは右舷に積んでもらいました。

7月17日午前7時中国船「^{フエンザン}風展号」1万トン
はキリンをのせ、いよいよ天津市へ向け神戸ポートL岸壁を離れました。だが不運にも出港してまもなく台風九号に見舞れてしまったのです。

暗ヤミに船は大きくゆれ、横波をかわしながら船は風と波に立ち向って進みます。

大しけに備え、どのようにキリンのオリをワイヤーロープでしばり、シートカバーを巻きつけばよいか……。作業服姿の丁貴享船長が私たちの部屋に來られ、対策を協議し、甲板員全員にその困難な作業を手伝ってもらいました。

キリンもよくがんばってくれました。酔わない



しけで酔わないように長い足を折りまげ座ってガンバルキリン



台風接近で、甲板員にも手伝ってもらいオリをロープでしばるなど万全を期す

よう、きちんと長い足を折りまげ進行方向にすわったまま動きません。やはり恐かったのでしょうシートカバーのすき間から、不安そうにじっと私たちを見つめていました。

三昼夜の航海予定が8日間にもなり、エサの木の枝が底をつきかけました。食べ残しのサクラやアカシヤの枝をもう一度捨て洗い、水に浸してそれを与えましたが、キリンもよくがまんして空腹を満してくれたのです。

さて、こうして8日間めの午後、天津港に無事入港した時、思わず私たちは元気なキリンに胸をなでおろしました。

●雄大な天津市水上公園

天津港から動物園までトラック輸送です。地上4メートルにもなるので電線や陸橋が危い、と心配する私たちに「昨日のうちに動物園のある水上公園までの架線は切断しています」という返事。

「中国に着いた以上、これからは私どもの責任です。すべておまかせ下さい」という中国側の心意気に感激してしまいました。

水上公園ということから動物園の施設などないのでは、と思っていましたが、それはたいへんな思いちがいでした。

総面積 200ヘクタール。池には13の島があってその中央の島は学童の野外教育ゾーンと展望台、

北部には天文学館、池の周囲にはのどかな子供汽車を走らせ、南部には果樹園に囲まれた動物園が建設中だったのです。

●動物園は神戸の3倍

その動物園の面積は20ヘクタール。わが神戸王子動物園の3倍の広さです。1年前にキリン舎、パンダ舎、クマ放養場、鳥園などが完成しておりトラ、ライオンの放養場『獅虎山』が建設中でした。

開園時間は年中無休で

夏 午前6時から——午後8時まで

冬 午前7時から——午後7時まで

入園料 日本円で8円

1メートル以下の子供は無料



くまの放養場



◀ 自然石をとりいれた放養場で遊ぶパンダ

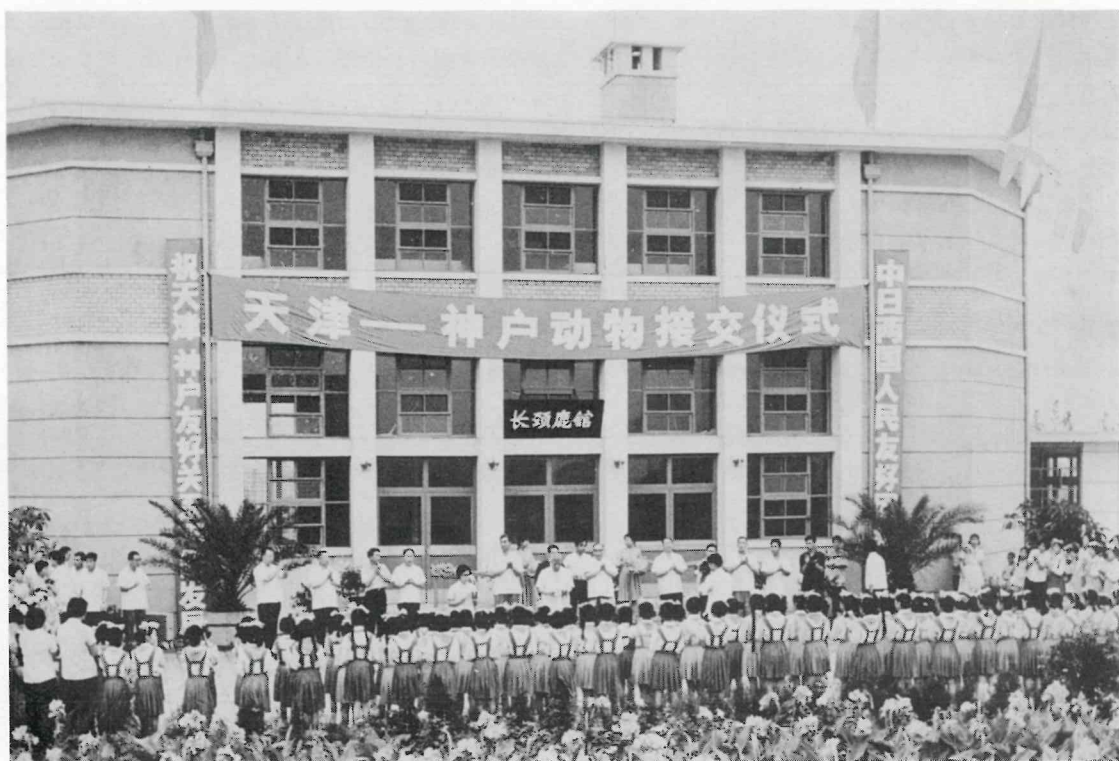
●熱烈歓迎キリン引渡式

キリン舎は日本の三階建にあたる高さの堂々たる建物で、正面入口上には長頸鹿館と標示されています。室内には柱は1本もなく、温度がマイナス20度と下がる冬のためスチーム暖房装置、タイル張りの観覧通路があって天井にはシャンデリアが輝いていました。この御殿のようなキリン舎の南には広い運動場があってキリンの出入に扉も自

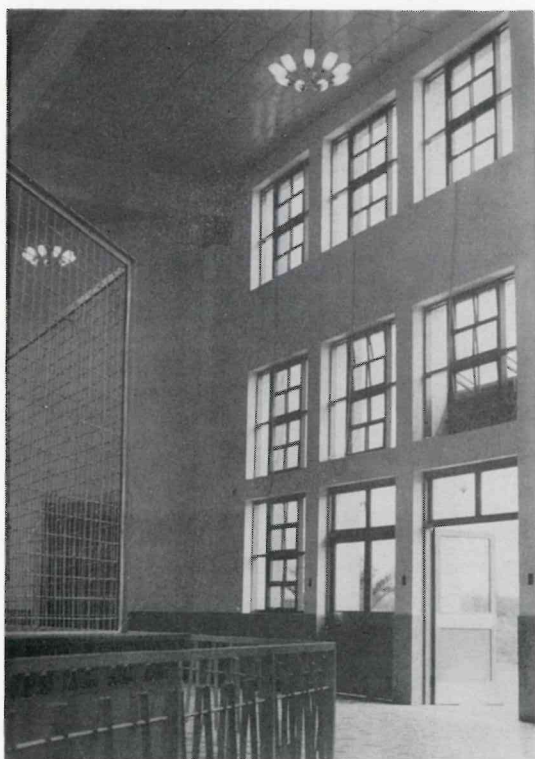
動です。

到着後私たちは飼育法の意見交換を念入りにやりましたが、ことばや服装のちがいもキリンにとっては不安だろうと、日本を出発するときから着ていた作業服や長グツ、手袋など「大変失礼ですがこの服を着て頂きたい、どうか受けとってください。」

「私たちも同じ考えです。ありがたく頂きキリ



多数の学童や市民が集まって行なわれた引渡式



天井にはシャンデリアが輝く御殿のようなキリン舎

ンを安心させたいと思います」と心よく受取ってくれました。

到着して4日めの7月26日午前10時から、長頸鹿館前で解学恭主任先生列席のもと多数の学童や市民が集り盛大な引渡し式が行われ、妻鹿敏治園長のキリンを贈るメッセージのあとテープカットされ多勢の皆様に見て頂きました。

●悲しかったキリンとの別れ

そしていよいよキリンとの別離の時がきましたのです。わずかな時間を利用しては、二度めの面会に行ってやりました。

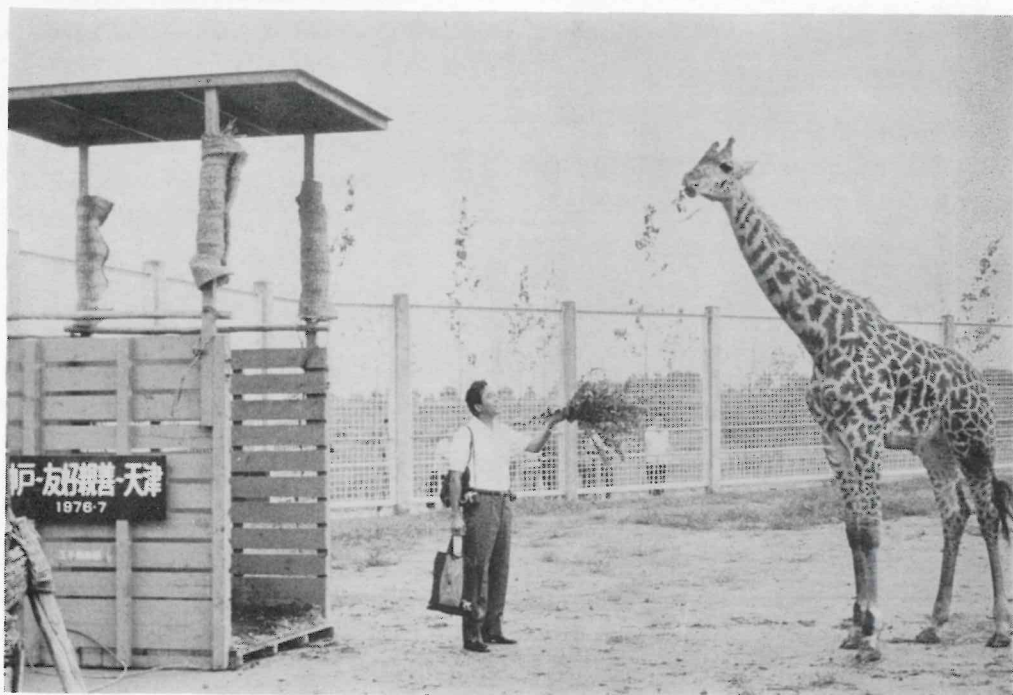
もうこれで会えないと、わかっていたのでしょう。一生けんめいにツマ先で立ち、サクに寄りかかって私の方に近ずこうとしてくれました。

何度ふりかえってもこちらをずっと見ていました。その見送ってくれたキリンの姿がいまも忘れられません。

なお、来年4～5月頃にはメスを送ることになっております。

亀井一成 記

▼ ひろひろとした新居におさまった
キリンと別れを惜しむ



チンパンジー三世

誕生の記録

51年5月24日午前7時40分類人猿舎でチンパンジーの出産がありました。

生れた子はオスで身長32cm体重1600g（推定）たいへん元気で6時間後には乳を飲んでるのが確認されほととさせられましたが、この子は祖父ジョニー（25才健在）の初孫にあたるといふ、わが国では初めての三世だったのです。そのおめでたいニュースは全国にテレビや新聞で紹介されました。

ジョニー家系図

祖父ジョニー 祖母 アコ
(25才健在) (18才で死亡)

第1産 オス 1962.7.11 2日で死亡

第2産 メス 1963.6.22 チェリー(人工)

第3産 オス 1964.8.7 双児・金・銀
(人工12才) オス 1976.5.24

第4産 オス 1965.8.6 サム 銀太
(日本初の三世)

ユキ(9才輸入)

〔出産の状況〕

出産は室内の高さ1.2mに設けてある木製ダナ(巾1m×長さ2.5m)の上で見られました。



母親ユキに抱かれて遊ぶ銀太



生後少したつと抱かれて乳をのむ

陣痛がはじまると苦しいのでしょう、前かがみになって後足でふんばり、力みます。娩出がはじまり子の頭が現れ、もう少しで産み落されそうになったところ、親はそっと両手で子を受けとめ、そのまま抱きあげてしまいました。

子の臍帯はおよそ85cmとたいへん長く太さは小指ほどもあって親が抱きあげても切れませんでした。

子が生れたあと30分ほどして、胎盤が娩出されましたが、それでも臍帯は切れません。親は抱いた子につながっている長い臍帯と胎盤とを子の体の一部と思うのでしょうか、ひきずる胎盤も大事そうに持ち歩きます。重たい胎盤が子の腹をひきつったり、長い臍帯がくると子の首に巻きついてしまうなど、私たちをばらはらさせます。

そこで、5時間すぎこれ以上自然に切れるのを待つことは危険が予想されましたので胎盤側から約10cmのところで切ってやりました。(親が咬みついてくるため術式通り胎児側から切ることができなかった)

〔授 乳〕

木の小枝や稲わらで巣を作って仰向きに寝ころんだ母親の腹の上で乳を飲むのが見られたのは生後6時間5分すぎでした。(左側の乳)

〔親の交尾〕

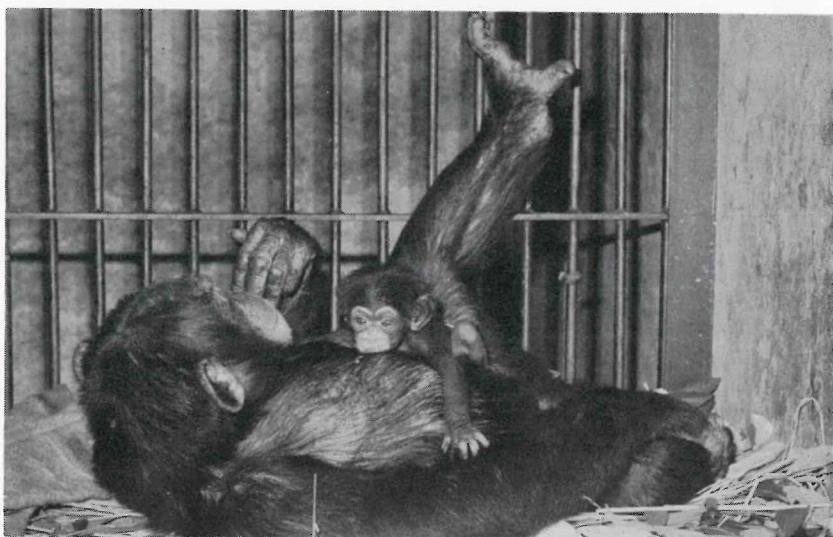
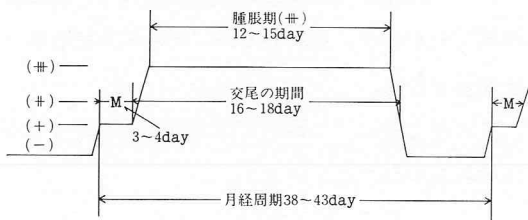
オス親は人工育ちの双児のチンパンジー金と銀で生後10年10カ月メスのユキと見合の末、同居させたところ、初めは金が交尾し、その後銀も交尾するのが確認されました。(50.6.7) それまでに父ジョニー夫婦を隣り合せにおき、時々仕切扉を開け父ジョニーとも同居させたことが、学習の必要な交尾を行えるようになったものと思われる。

ところが、交尾をはじめた銀は父ジョニーや兄の金にも攻撃的となって、ジョニーは顔や耳に大へんな傷を負い分離すること何度もありました。

〔オス親の成長経過〕

生時	1964.8.7	オス 双児 金	850g
(当園で生れる)		銀	800g
生後	3カ月	乳歯上下門歯発生	3Kg
〃	1年3カ月	乳歯20本発生完了	7Kg
〃	5年8カ月	永久歯にかわりはじめる	26Kg
〃	8年9カ月	姉チェリーの初潮	43Kg
〃	10年6カ月	メス、ユキと同居交尾確認	50Kg
〃	11年9カ月	三世銀太誕生	55Kg

〔性周期(性皮腫脹推移)〕



生まれた直後は母親の腹の上で乳を飲む

〔むすび〕

- メス親の月経周期は38～43日で、交尾が認められたのは性皮腫脹(+)～(++)の期間16～18日間でした。
- 分娩経過は順調でしたが長い臍帯が子の首に巻きついたときにはたいへん心配され、切るにも激しく咬みついてくるため苦労しました。
- 神戸ではこれで6回めの出産を経験したわけですが臍帯が切れなかったのは2度めのことでした。
- 残念なことにユキが妊娠してからオスの銀は鉄格子にぶらさがっているさなか突然ケイレン発作を起し転落死してしまったのです。そこで、この度の三世は忘れがたみとして“銀太”と名づけてやりました。
- なおユキはいまも元気な金(銀の兄)のそばに行こうとしますので体調や銀太の成長を待って同居させてやることにしています。
- また、双児の金銀の姉にあたるメスのチェリーも、人工育ちということで交尾ができるかどうか心配されていましたが、オス親ジョニーと金、銀、ユキ、など計5頭を同居させていたところ、ジョニーとの交尾が確認され、目下その出産が待たれています。
- 一方、祖父ジョニーは1955年12月14日5才で到着していますので、三世の誕生までには実に20

年5カ月も かかっていることが分りました。

ところで祖父のジョニーは満25才。歯のいたみがはじまり、後頭部から背中の中も白くなり初老を感じさせていますが、気性だけはまだまだ激しく、かくしやくとしています。

銀太の発育はその後順調で生後3カ月を迎え、ひとり座りや、親の体を持って支え立ちをはじめ、ときどき、見知らぬ人にはかわいい声でいばりはじめています。それに銀太はやはり父親「銀」の顔だちに似てきており、その可愛さはひとしおで、無事の成長を祈っております。

(亀井 記)



○動物園日誌

51. 1. 4 カバ、メス1頭出生
母親茶目子10産日の子で、すぐ哺乳も確認されたが、寒いのでドラム缶に何本ものパイプを通した。「ドラム缶湯わかし器」を考案、水温25℃に保ってやる。
- 1.17 キリン、メス1頭出生
3.29 トラ、3頭出生
3.20 春の動物園まつり(5月20日まで)
4.29 動物とあそぶ会
5.24 チンパンジーに日本初の三世オス1頭出生
5.26 キングペンギン6羽到着
6. 1 世界初の混血コウノトリが産卵したが、ふ化しなかった
6. 3 ピューマ、3頭出生
6. 5 ゾウを計る会
毎年計量記念日に動物を計る会を行っており今年はゾウ(オス太郎29才)を計った3,980Kg
6.15.16 アシカ、昨年に続いて2頭出生
7.16 キリン1頭中国へ出発
8.2~7 第6回サマースクール
8.19 シベリヤトラ オス1頭アメリカ、サンディゴ動物園より到着
9.25 カンムリヅル2羽自然ふ化
10.13 マンドリル1頭誕生

(((((ふ化しなかった混血コウノトリ二世)))))

オスの中国産コウノトリと、メスのヨーロッパコウノトリとが、たまたま隣りあわせたことから金網越しに「つがい行動」が見られ、同居させたところ、世界初という混血コウノトリ、7羽が誕生しました。(昭和47年)

果してこの混血種に繁殖能力があるかどうか、たいへん注目されていたところ、成鳥になった今年(生後3年10カ月)4月13日~20日にかけ、2組の「つがい」ができ、各々が3個の卵を産みオス、メス交代で抱きはじめたのです。

そのふ化日数32日~34日が待たれました。抱卵開始10日前後に検卵するかどうか検討されましたが、親に刺激をあたえることを考え、巣に近寄ら

なかったのです。

しかし、予定日がすぎ、50日たっても「ふ化」のきざしがないため、検卵したところ、残念なことにどの卵も腐敗していました。

産卵前に交尾が確認されていたので、もし、胚(はい)の発生がなかったのなら、交尾がありながらも無精卵であったわけです。しかし、このたびは途中の検卵をしなかったので、発生後中死したものか、無精卵であったものかはわかりませんでした。

その後2組の「つがい」は元気で仲も良く来春の産卵期が待たれています。

現在世界に住むトラは7亜種あって、寒冷的な北方系ほど大きく毛も長く色も淡いといわれている。その中で最も巨大なシベリヤトラオス(2才)が、このほどアメリカサンディエゴ動物園から贈られてきました。

これまでにいたベンガルトラの隣りに収容しましたが、体長4m 体重400キロを越すとあって、さすがに大きく、200キロ少々ベンガルトラが、まことに小さく見えます。

餌もベンガルトラ、7キロ(1日量)に比べ13キロの馬肉をペロリと食べ1頭当り1日およそ7000円1ヵ月21万円の餌代のやりくりにあたまが痛いところです。

以下はトラの種類

・ベンガルトラ (インド中央部からアッサムに多

く、ふつう動物園にはこのトラが飼育されている)

・スマトラトラ (ベンガルより小さく縞が多く、あごひげがよく発達している)

・ジャワトラ (ジャワ島に住み、ワジョン、クロン保護区にわずか12~13頭がいるだけだといわれている)

・バリトラ (バリ島に住む最も小型のトラで絶滅が心配されている)

・ペルシヤトラ (中央アジアからコーカス、イラン、アフガニスタンに住む)

・中国東北トラ (シベリヤトラのなかまだが東北トラ、チョウセントラなどと呼ばれている)

・シベリアトラ (ソ連の極東部の沿海地方やハバロフスク地方に住みアムールトラとも呼ばれている。)

編集後記

当園で生まれたキリンの子を、神戸市の友好都市天津へ贈るのにつきそって、妻鹿園長と飼育の亀井一成氏が中国を訪れました。

まだ、成獣になっていない動物を国外に運ぶ。しかも、それが大切な親善のためのものとあっては、とにかくにも無事送り届けねばならない。いくら動物のあつかに馴れているといっても苦勞の多いことなのに、出航後わるいことに台風に見舞われ、輸送の予定日数も大巾に狂うなどあって、航海中はなみなならぬ困難があったようです。しかし、適切な措置と、非常な努力のかいあって、元気なキリンを天津動物園に引渡すことができ大任をはたすことができました。その状況は「キリン天津へ行く」の記事がよく物語っています。

ところで、引渡し式を終えた翌日、ニュースで伝えられたような大地震に遭い、休養のまもないありさまだったようですが、幸い事故もなく、その後、天津市の世話などあって中国各地の動物園やその他の施設を視察、元気に帰園しました。このことは、妻鹿園長の「中国の動物園を視察して」の記事にみられます。

いずれにしても、両氏とも、このたびの中国訪問、ほんとうにご苦勞さまでした。 (秋山)



は ば た き

第 5 号

昭和51年10月10日 発行

編集
発行 財団法人 神戸王子動物園協会
神戸市灘区王子町 3 丁目 TEL 801—5711
神戸市立王子動物園内

印刷所 高輪印刷株式会社
神戸市兵庫区中道通2丁目3番7号
TEL 575—0717